

授業要目（シラバス）

授業科目名	簿記		実務経験のある教員等による授業		○
			実務経験	税理士事務所	
担当教員		学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	122時間
教科書	合格テキスト 日商簿記3級（TAC株式会社）				
参考書・問題集	合格トレーニング・合格ドリル・まるっと完全予想問題				
授業概要	個人商店における基本的な日常取引（商品売買・現金預金・手形・固定資産等）の処理を学習する。日商簿記3級を取得するための対応科目である。				
学習目標	日本商工会議所主催 簿記検定3級の合格を目指す。また、購買活動や販売活動など、企業外部との取引を記録・計算する技能を習得し、財務諸表の作成にかかわる諸活動を理解することで、経理・事務能力を身に着ける。				
授業の進め方	テキストを基に授業を進行し、各章ごとに練習問題、小テストなどの問題演習を行う。電卓が必要なため準備、持参する。				
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 簿記の基礎、日常の手続き ■ 商品売買取引の記帳、決済手段 ■ 決済手段について 現金預金、クレジット、手形取引など ■ さまざまな帳簿の関係 主要簿、補助簿 ■ 商品販売以外の取引 貸付金・借入金、有形固定資産、訂正など ■ 試算表 ■ 決算整理 現金過不足、売上原価、貸倒れ、減価償却、繰延べ、見越し ■ 精算表の作成 ■ 損益計算書、貸借対照表の作成 ■ 株式の発行 ■ 剰余金の配当、処分 ■ 税金、証ひょうと伝票 <p style="text-align: center;">【日商簿記3級を受験】</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p style="padding-left: 2em;">(2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	Office実践 I		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員		学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	75時間
教科書	よくわかる Word2021、Excel2021、PowerPoint2021				
参考書・問題集	よくわかるマスター MOS Word365 & 2019 対策テキスト & 問題集				
授業概要	情報社会を生きるための倫理を学習する。ビジネスの現場で幅広く使用されているOfficeソフトを総合的に学習し、実践で活用するための技術を習得する。主にWordを学習し、MOS検定Word Specialistの取得を目指す。				
学習目標	OfficeソフトWordの操作について学習し、効率的な文書や広告などのデータ作成が効率的に行えるようになる。その他、タイピングやさまざまなアプリケーションについて学習する。MOS検定Word Specialistの取得を目指す。				
授業の進め方	テキストを基に進捗する。PCを使用し、実習を行いながらWordの機能や操作について学習をする。検定日が近づくと模擬試験を行い検定試験の合格に備える。				
授業内容	<p>■ OfficeSoft Word2019の基本操作 【4, 5月中旬】</p> <p>1. Wordの概要、基本操作 2. 文書作成 3. グラフィック機能 4. 表の作成、挿入</p> <p>■ MOS Word2019 Specialist 【5月下旬～7月】</p> <p>1. 文書の作成と管理 2. 文字、段落、セクションの書式設定 3. 表やリストの作成 4. 参考資料の作成と管理 5. グラフィック要素の挿入と書式設定 6. 確認問題、模擬試験</p> <p>※ 7月中旬 MOS Word2019 Specialist 検定実施</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者 C：理解および日常の授業態度がやや劣る者 D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者 (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	Office実践Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員		学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前後期	時間数	105時間
教科書	よくわかる Word2021、Excel2021、PowerPoint2021				
参考書・問題集	よくわかるマスター MOS Excel365 & 2019 対策テキスト & 問題集				
授業概要	ビジネスの現場で幅広く使用されているOfficeソフトを総合的に学習し、実践で活用するための技術を習得する。主にExcelを学習し、MOS検定Excel Specialistの取得を目指す。				
学習目標	OfficeソフトExcelの操作について学習し、効率的な文書や広告などのデータ作成が効率的に行えるようになる。その他、タイピングやさまざまなアプリケーションについて学習する。MOS検定Excel Specialistの取得を目指す。				
授業の進め方	テキストを基に進行する。PCを使用し、実習を行いながらExcelの機能や操作について学習をする。検定日が近づくと模擬試験を行い検定試験の合格に備える。				
授業内容	<p>■ OfficeSoft Excel2019の基本操作 【8, 9月下旬】</p> <p>1. Excelの概要、基本操作 2. データ入力 3. 表の作成</p> <p>4. グラフの作成 5. データの分析</p> <p>■ MOS Excel2019 Specialist 【10月～12月初旬】</p> <p>1. 文書の作成と管理 2. 文字、段落、セクションの書式設定</p> <p>3. 表やリストの作成 4. 参考資料の作成と管理</p> <p>5. グラフィック要素の挿入と書式設定</p> <p>6. 確認問題、模擬試験</p> <p style="padding-left: 40px;">※ 12月中旬 MOS Excel2019 Specialist 検定実施</p> <p>■ OfficeSoft PowerPoint2019の操作 【12月下旬～】</p> <p>1. PowerPointの概要、基本操作 2. スライドの作成、挿入</p> <p>3. スライドショーの実行、印刷 4. 発表者ビューの活用、スライドの効果</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p style="padding-left: 40px;">(2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	情報リテラシーB		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員		学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前後期	時間数	47時間
教科書	ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集				
参考書・問題集					
授業概要	ICTに関わる知識や技術を体系的に学習・習得できるITパスポート試験のうち、テクノロジー系の内容学習し、ビジネス社会で必要不可欠なICT活用能力の基礎を身につける。				
学習目標	現代ICTに関わる、基本的な用語や仕組みを理解 情報活用検定3級の合格				
授業の進め方	学習テキストを元に授業を進行し、適時問題集によって問題演習を行う。				
授業内容	<p style="text-align: center;">（8月～11月）</p> <p style="text-align: center;">ITパスポート テクノロジー系</p> <p style="text-align: center;">基礎理論、コンピュータシステム、技術要素</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p style="padding-left: 2em;">(2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	ペン字		実務経験のある教員等による授業		○
			実務経験	書家、書道講師	
担当教員	藤井	学年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	通年	時間数	33時間
教科書	横書きペン字練習帳、筆ペン字練習帳				
参考書・問題集	プリント				
授業概要	硬筆の基本を学び美しい文字が書けるようにする。履歴書などの就職関係の書類でもきちんとした字が要求されるため、一字一字ていねいに美しく書く。集中力を養い、自己向上に努める。				
学習目標	履歴書、封筒、手紙などを丁寧、きれいに書けるようになる。				
授業の進め方	テキストを基に授業を進行する。実際に文字を書く練習、実習、添削指導を行う。				
授業内容	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ひらがな、片仮名の学習 ■ 楷書の基本点画・字形 ■ 氏名・住所・地名の練習 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ はがきの書き方 ■ 封筒の書き方 ■ 手紙の用語・文例 ■ 年賀状の書き方 ■ 履歴書の書き方 ■ 贈答用語 				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p style="padding-left: 2em;">(2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考	硬筆検定の受験(希望者)				

授業要目 (シラバス)

授業科目名	英会話		実務経験のある教員等による授業	○	
			実務経験	英会話講師	
担当教員	リサ	学年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	通年	時間数	33時間
教科書	基本の78パターンで英会話フレーズ800				
参考書・問題集	上記テキストおさらいプリント、書き込み式英会話ブック				
授業概要	社会人として必要とされる英会話やリスニング、就職試験に向けて文法や文章読解の基礎を学習する。文法の基本ルールを学習し、ビジネス社会に必要な英会話の基礎を身につける。				
学習目標	英語への苦手意識をなくし、表現したいことを自由に英語で表現できる。 英語でコミュニケーションをとれる能力を身につける。 伝える、受け取るコミュニケーションの基本姿勢を養う。				
授業の進め方	テキストを基に授業を進行する。文法説明やリスニング、発声により英語の音に慣れさせる。英作文を作成し、ライティングでの英語表現を養う。学生同士での英会話を行う。				
授業内容	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 基礎文法を学び直し ■ 自分のことを紹介する (英作文、英会話) <ol style="list-style-type: none"> 1. 初対面の相手へ自己紹介 2. 自分の趣味、興味のあることの紹介 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 相手のことを知る <ol style="list-style-type: none"> 1. 挨拶、出身地、家族について尋ねる 2. 趣味、好きなことについて尋ねる ■ 自分の気持ち、要望を伝える ■ 会話、単語の使い分け 				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準 (成績評価は A, B, C, D の4段階)</p> <p>A : 理解および日常の授業態度が優秀な者 B : 理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C : 理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D : (1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	数理基礎		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	安藤	学年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	通年	時間数	32時間
教科書	はじめて学ぶSPI入門問題集 SPI基礎からはじめる問題集				
参考書・問題集	適性試験練習問題				
授業概要	就職試験として出題されるSPIを学習する。				
学習目標	SPIの非言語分野について、その考え方や解法を習得し、就職試験に必要な知識を身につける。				
授業の進め方	テキストに沿ってSPIの各テーマごとに解説と問題演習を行う				
授業内容	<p>【前期】（4月～9月）</p> <p>■ はじめて学ぶSPI入門問題集（非言語分野） テーマ5 分数の計算 ～ テーマ20 年齢算</p> <p>【後期】（10月～2月）</p> <p>■ SPI基礎からはじめる問題集（非言語分野） 第1部 1 損益算 ～ 19 割合</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者 (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	適性試験Ⅰ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	小原	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	通年	時間数	83時間
教科書	適性試験ステップ25[基礎]編 適性試験ステップ25[実践]編				
参考書・問題集	適性試験練習問題				
授業概要	公務員試験で課される適性試験の演習を行う。				
学習目標	効率よく適性問題を解答し高得点の取得を目指す。短時間での集中力や仕事の正確性などを養う。				
授業の進め方	適性試験問題の実施。				
授業内容	<p>【前期】（4月～9月）</p> <p>テキスト 適性試験ステップ25[基礎]編 適性試験ステップ25[実践]編</p> <p>【前期】（10月～2月）</p> <p>適性試験練習問題</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	社会科学基礎		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	友松	学年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	後期	時間数	58時間
教科書	公共				
参考書・問題集					
授業概要	公務員試験に必要な社会科学（政治・経済・現代社会）の知識の理解を促す。				
学習目標	世界の地形・産業や歴史、ならびに、日本の地形・産業や歴史についての基礎知識を定着させ、教養試験での確実な得点を目指す。				
授業の進め方	テキストに沿って順に講義を進めていき、確実な知識定着を促す。				
授業内容	<p>第1部 「公共」のとびら</p> <p>第1章 公共的な空間をつくる私たち</p> <p>第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方</p> <p>第3章 公共的な空間における基本的原理</p> <p>第2部 自立した主体として社会に参画する私たち</p> <p>第1章 民主政治と私たち</p> <p>第2章 法の働きと私たち</p> <p>第3章 経済社会で生きる私たち</p> <p>第4章 私たちの職業生活</p> <p>第5章 国際社会の中で生きる私たち</p> <p>第3部 持続可能な社会づくりに参画するために</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	人文科学基礎		実務経験のある教員等による授業						
			実務経験						
担当教員	大西	学 年	1年	履修区分	必履修				
授業の形態	一斉授業	開講学期	通年	時間数	100時間				
教科書	高卒程度 公務員試験対策 人文科学								
参考書・問題集	プリント								
授業概要	公務員試験に必要な人文科学（日本史、世界史、地理）の知識の理解を促す。								
学習目標	世界の地形・産業や歴史、ならびに、日本の地形・産業や歴史についての基礎知識を定着させ、教養試験での確実な得点を目指す。								
授業の進め方	それぞれの科目についてテキストに沿って順に講義を進めていく。毎授業後の確認プリントや定期的な振り返りテストを使い、確実な知識定着を促す。								
授業内容	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>日本史</p> <p>第1期 律令～鎌倉時代</p> <p>第2期 室町～江戸時代</p> <p>第3期 江戸後期～明治維新</p> <p>第4期 自由民権～帝国主義</p> <p>第5期 世界大戦</p> <p>第6期 戦後～現代</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>地理</p> <p>第1期 気候、地形</p> <p>第2期 農業、工業</p> <p>第3期 民族、日本</p> <p>第4期 アジア、アフリカ</p> <p>第5期 ヨーロッパ</p> <p>第6期 南北アメリカ</p> </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>世界史</p> <p>第1期 古代～中世</p> <p>第2期 大航海～革命</p> <p>第3期 革命～19世紀</p> <p>第4期 帝国主義～世界大戦</p> <p>第5期 戦後、冷戦</p> <p>第6期 中国、イスラム</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>*各科目とも期毎に振り返りテスト、年度末に期末テストを実施</p> </td> </tr> </table>					<p>日本史</p> <p>第1期 律令～鎌倉時代</p> <p>第2期 室町～江戸時代</p> <p>第3期 江戸後期～明治維新</p> <p>第4期 自由民権～帝国主義</p> <p>第5期 世界大戦</p> <p>第6期 戦後～現代</p>	<p>地理</p> <p>第1期 気候、地形</p> <p>第2期 農業、工業</p> <p>第3期 民族、日本</p> <p>第4期 アジア、アフリカ</p> <p>第5期 ヨーロッパ</p> <p>第6期 南北アメリカ</p>	<p>世界史</p> <p>第1期 古代～中世</p> <p>第2期 大航海～革命</p> <p>第3期 革命～19世紀</p> <p>第4期 帝国主義～世界大戦</p> <p>第5期 戦後、冷戦</p> <p>第6期 中国、イスラム</p>	<p>*各科目とも期毎に振り返りテスト、年度末に期末テストを実施</p>
<p>日本史</p> <p>第1期 律令～鎌倉時代</p> <p>第2期 室町～江戸時代</p> <p>第3期 江戸後期～明治維新</p> <p>第4期 自由民権～帝国主義</p> <p>第5期 世界大戦</p> <p>第6期 戦後～現代</p>	<p>地理</p> <p>第1期 気候、地形</p> <p>第2期 農業、工業</p> <p>第3期 民族、日本</p> <p>第4期 アジア、アフリカ</p> <p>第5期 ヨーロッパ</p> <p>第6期 南北アメリカ</p>								
<p>世界史</p> <p>第1期 古代～中世</p> <p>第2期 大航海～革命</p> <p>第3期 革命～19世紀</p> <p>第4期 帝国主義～世界大戦</p> <p>第5期 戦後、冷戦</p> <p>第6期 中国、イスラム</p>	<p>*各科目とも期毎に振り返りテスト、年度末に期末テストを実施</p>								
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>								
備考									

授業要目（シラバス）

授業科目名	自然科学基礎		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	安藤 塚田	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前後期	時間数	39時間
教科書	プリント				
参考書・問題集					
授業概要	公務員試験に必要な自然科学（物理、化学、生物、地学）の知識の理解を促す。				
学習目標	自然科学についての基礎知識をつけ、語句や仕組みを正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	プリントを使用し、項目ごとの特徴や重要用語の講義を実施する。				
授業内容	<p>（8月～10月） 自然科学（物理、化学、生物、地学）の分野をプリントを通して基礎知識を定着させ、教養試験での確実な得点を目指す。</p> <p>（11月～2月） 自然科学（物理、化学、生物、地学）の分野をプリントを通して基礎知識及び応用的な知識を定着させ、教養試験での確実な得点を目指す。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階） A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者 C：理解および日常の授業態度がやや劣る者 D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者 (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	一般知能基礎		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	小原	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前後期	時間数	59時間
教科書	プリント				
参考書・問題集					
授業概要	実際の問題を解きながら公務員試験に必要な一般知能（判断推理、数的推理、資料解釈）の理解を促す。				
学習目標	判断推理・数的推理、資料解釈について基礎的な解法を理解し、教養試験に対応できる基礎力の定着を目指す。				
授業の進め方	基礎的な問題をまとめたプリントを用いて、問題演習および講義を実施する。				
授業内容	<p>■判断推理 プリントによる問題演習</p> <p>■数的推理 プリントによる問題演習</p> <p>■資料解釈 プリントによる問題演習</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	国語基礎		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	吉野	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	後期	時間数	11時間
教科書	プリント				
参考書・問題集					
授業概要	年間を通して、基礎教養として必要な漢字、慣用句、四字熟語、ことわざ、敬語など言葉について学ぶ。また、文章の読解の仕方について学ぶ。				
学習目標	就職に必要なレベルの国語力を育成することを目指す。				
授業の進め方	テキスト、プリントなどの教材を用いて、講義形式を中心として授業を進める。				
授業内容	<p>■ 言葉の学習</p> <p>※ 漢字の読み、書き取り、慣用句、語彙、四字熟語、同音異義語、敬語など</p> <p>■ テキスト以外のプリント教材を用いて、文章読解力、教養を育成する学習</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	公務員リテラシー		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	小原	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	通年	時間数	90時間
教科書	作文ワーク				
参考書・問題集					
授業概要	公務員に必要な知識と教養を身につけるとともに、社会問題や課題について考え、分析し、行動する力をつける。また、自己分析を行うことで、公務員に求められる資質を養うために何が必要であるか考える。				
学習目標	公務員の仕事について深く研究し、希望する職種への理解を図る。また、世の中の事象に対し、深く注意をはらい考察し、自分自身の考えを述べることができるようになる。				
授業の進め方	職業研究、課題研究を個人または班ごとで行い、プレゼン資料を作成し発表する。自分の過去の経験を見つめ直し、文章によって表現する。また公務員倫理に関するテーマの作文を行う。				
授業内容	<p>前期</p> <p>作文 ・自己PR</p> <p>・学生生活で力を注いだこと</p> <p>・公務員倫理</p> <p>職業研究 ①鳥取県職員</p> <p>②市町村</p> <p>③国家公務員</p> <p>後期</p> <p>課題研究（社会問題）</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>(2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	総合学習Ⅰ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	小原	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	通年	時間数	66時間
教科書					
参考書・問題集					
授業概要	変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行う				
学習目標	学生が自主的に課題を見つけ出し、学んだり考えたり判断したりしながら、課題解決のための資質や能力を育成する				
授業の進め方	学校行事の話し合いやテーマごとのディスカッションを各クラス単位や学校全体で実施する。市立図書館訪問や清掃活動などの校外活動を実施する。必要に応じて検定試験の対策を行う。				
授業内容	<p>■集団討論 遠足や球技大会の実施方法などについてグループに分かれて実施する。 （クラス単位や学校全体など、定期的にメンバーを変えて実施する）</p> <p>■図書館訪問 米子市立図書館へ訪問し、利用方法を学習した上でテーマに沿った文献の探求やそれについてのレポートを実施する。</p> <p>■清掃活動 定期的に校外で清掃活動を実施する。</p> <p>■その他、クラス活動 クラスごとに必要に応じて、検定試験や研究活動などを実施する。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階） A：理解および日常の授業態度が優秀な者　B：理解および日常の授業態度が良好な者 C：理解および日常の授業態度がやや劣る者 D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者 (2)科目の授業出席率が80%未満の者　※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	LHR I		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西、小原	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	通年	時間数	40時間
教科書					
参考書・問題集					
授業概要	学校行事の実施。				
学習目標	校内のレクリエーションを通じてイベントを組み立て運営する力を身につけたり、参加することでどのような効果があるのかを考える力を身につける。				
授業の進め方	学校行事の企画、運営、および参加。				
授業内容	<p>■入学・進級オリエンテーション 米子コンベンションセンターにて実施。 1日目 学校内規則の確認、模擬試験実施、学習内容および学習計画の確認 2日目 全学生によるレクリエーションの実施</p> <p>■遠足 4月下旬に実施。</p> <p>■球技大会 夏、冬の二回実施。 学生主体で、企画、運営、活動を実施する。</p> <p>■学園祭 12月中旬に実施。 学生主体で、企画、立案、運営、活動を実施する。</p> <p>■プレゼン発表会 年度末に実施。 5名ほどの班に分かれて、各班ごとにテーマを決定し、研究発表を実施する。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階） A：理解および日常の授業態度が優秀な者　B：理解および日常の授業態度が良好な者 C：理解および日常の授業態度がやや劣る者 D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者 (2)科目の授業出席率が80%未満の者　※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。 検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	適性試験Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	塚田、小原	学年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	88時間
教科書					
参考書・問題集	適性試験練習問題（100回） プリント				
授業概要	国家公務員試験採用時に課される適性試験模擬試験問題の演習の実施、および、新聞の社説を制限時間内に任意の文字数に要約する。				
学習目標	効率よく適性問題を解答し高得点の取得を目指す。また、短時間で難易度の高い長文の内容を理解し要点を適切な言葉でまとめ、作文する力を身につける。				
授業の進め方	前半20分は、適性試験問題の実施。（課題把握：5分、解答：15分） 後半20分は、社説要約の実施および解説。途中、合間の時間を利用して、100マス計算のプリントを実施する。（100マス計算のみ前半に行う）				
授業内容	<p>適性試験 問題冊子を配布した後、20分（問題把握 5分、解答 15分）計測をして問題演習を実施。</p> <p>社説要約 社説問題を配布し、各自問題文を読み解き、要約作文を記入させる。 答案は毎回回収して採点をして返却する。</p> <p>100マス計算 プリントを配布し、一定時間内に計算結果を記入する。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階） A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者 C：理解および日常の授業態度がやや劣る者 D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者 (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	政治Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	友松	学 年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	42時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 社会科学テキスト				
参考書・問題集	公共（東京書籍）				
授業概要	民主政治の基本原則、日本国憲法（主に基本的人権について）、政治の仕組み、地方自治、国際社会などの理解を促し、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	政治についての基礎知識をつけ、語句や仕組みを正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半は、テキストに沿って、政治の原理や重要用語の講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習を実施し、模範解答の解説を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 民主政治の基本原則 2. 主要国の政治制度 3. 日本国憲法 4. 基本的人権（総論） 5. 基本的人権（各論） 6. 国会 7. 内閣 8. 裁判所 9. 地方自治 10. 政党と選挙制度 11. 国際政治 12. 国際連合 <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	経済Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	友松	学年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	46時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 社会科学テキスト				
参考書・問題集	公共（東京書籍）				
授業概要	市場の原理、金融や財政の仕組みなど経済全般における理解を促し、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	経済についての基礎知識をつけ、語句や仕組みを正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半は、テキストに沿って、経済の原理や重要用語の講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習を実施し、模範解答の解説を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 需要と供給、経済学説 2. 市場 3. 企業 4. 国民所得と景気変動 5. 金融の仕組み 6. 財政の仕組み 7. 日本経済の発展 8. 国政経済 9. 地域的経済統合 <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	倫社Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	友松	学 年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	40時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 社会科学テキスト				
参考書・問題集	公共（東京書籍）				
授業概要	西洋と東洋の思想の理解、労働問題や社会保障など現代社会における課題についての理解を促し、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	倫理や現代社会についての基礎知識をつけ、語句や仕組みを正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半は、テキストに沿って、様々な思想や重要用語の講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習を実施し、模範解答の解説を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <p>倫理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋の思想（古代、近代） 2. 西洋の思想（近代、現代） 3. 東洋の思想 <p>現代社会</p> <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	日本史Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西	学 年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	42時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 人文科学テキスト				
参考書・問題集	プリント				
授業概要	古代、中世、近世、近代および現代の日本の歴史についての理解を促し、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	日本の歴史についての基礎知識をつけ、語句や仕組みを正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半は、テキストに沿って、プリントを使用しながら時代ごとの特徴や重要用語の講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習および復習を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 律令国家 2. 平安時代 3. 武家社会の変遷 4. 戦国時代と織豊政治 5. 幕藩体制 6. 江戸末期～明治維新 7. 明治時代 8. 大正時代 9. 昭和時代 10. 第二次世界大戦 11. 第二次世界大戦後の諸改革 <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	世界史Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西	学 年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	48時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 人文科学テキスト				
参考書・問題集	プリント				
授業概要	古代文明、ローマ時代、中世、近世、近代の西洋の歴史および中国、イスラム、インドの歴史についての理解を促し、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	世界の歴史（西洋史、中国史）についての基礎知識をつけ、語句や仕組みを正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半は、テキストに沿って、プリントを使用しながら時代ごとの特徴や重要用語の講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習および復習を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古代文明、ローマ帝国 2. ゲルマン国家、キリスト教、ヨーロッパ世界の形成 3. 大航海時代、宗教改革 4. 絶対王政、市民革命 5. 列強の帝国主義政策 6. 第一次世界大戦前後 7. 第一次世界大戦前後（アジア） 8. ファシズム、第二次世界大戦 9. 第二次世界大戦後の世界、冷戦 10. 中国の歴史 11. イスラム世界の歴史 12. インドの歴史 <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	地理Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西	学 年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	34時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 人文科学テキスト				
参考書・問題集	世界の諸地域NOW、統計要覧 プリント				
授業概要	地形、気候、農工業、各国状況、環境問題など地理についての理解を促し、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	地理についての基礎知識をつけ、語句や仕組みを正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半は、テキストに沿って、プリントを使用しながら項目ごとの特徴や重要用語の講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習および復習を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然環境 2. 気候 1 3. 気候 2、土壌 4. 民族、人口、交通 5. 世界の農林水産業 6. 世界の鉱工業 7. アジア、アフリカ 8. ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニア 9. 日本 10. 世界の都市、公害、環境問題、地図 11. 時差 <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	自然科学Ⅱ		実務経験のある教員等による授業				
			実務経験				
担当教員	塚田、安藤	学 年	2年	履修区分	必履修		
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	61時間		
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 自然科学テキスト						
参考書・問題集	プリント						
授業概要	物理、化学、生物、地学などの自然科学分野についての理解を促し、公務員試験問題の演習を実施する。						
学習目標	自然科学についての基礎知識をつけ、語句や仕組みを正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。						
授業の進め方	前半は、テキストに沿って、プリントを使用しながら項目ごとの特徴や重要用語の講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習および復習を行う。						
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>物理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 物体の運動と力 2. エネルギー 3. 波動 4. 電流と磁界 5. 原子核ほか <p>化学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 元素の周期表と化学結合 2. 化学反応と物質 3. 酸と塩基 4. 酸化と還元 5. 無機物質と有機物質 6. 人間生活と化学 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>生物</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞と組織 2. 光合成と呼吸 3. 刺激と反応 4. 恒常性 5. 生殖と遺伝 6. 生物の集団と物質循環 <p>地学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大気と地球 2. 地球内部の構造 3. 岩石と火山 4. 地球の歴史 5. 太陽系と恒星 </td> </tr> </table> <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問演習 および、解説。</p>					<p>物理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 物体の運動と力 2. エネルギー 3. 波動 4. 電流と磁界 5. 原子核ほか <p>化学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 元素の周期表と化学結合 2. 化学反応と物質 3. 酸と塩基 4. 酸化と還元 5. 無機物質と有機物質 6. 人間生活と化学 	<p>生物</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞と組織 2. 光合成と呼吸 3. 刺激と反応 4. 恒常性 5. 生殖と遺伝 6. 生物の集団と物質循環 <p>地学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大気と地球 2. 地球内部の構造 3. 岩石と火山 4. 地球の歴史 5. 太陽系と恒星
<p>物理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 物体の運動と力 2. エネルギー 3. 波動 4. 電流と磁界 5. 原子核ほか <p>化学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 元素の周期表と化学結合 2. 化学反応と物質 3. 酸と塩基 4. 酸化と還元 5. 無機物質と有機物質 6. 人間生活と化学 	<p>生物</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞と組織 2. 光合成と呼吸 3. 刺激と反応 4. 恒常性 5. 生殖と遺伝 6. 生物の集団と物質循環 <p>地学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大気と地球 2. 地球内部の構造 3. 岩石と火山 4. 地球の歴史 5. 太陽系と恒星 						
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p style="padding-left: 20px;">(2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>						
備考							

授業要目（シラバス）

授業科目名	国語Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	吉野	学年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	21時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 一般知能テキスト				
参考書・問題集	プリント				
授業概要	言葉・歴史・文化・社会などについてのさまざまな文章を取り上げて、読解することで、読解力を高めながら、公務員試験問題に対応できる国語力を育成する。				
学習目標	様々な文章の読解力を付け、また国語の力を付けることで、公務員採用試験で得点できることを目指す。				
授業の進め方	テキスト、プリントなどの教材を用いて、講義形式を中心にして、授業を進める。				
授業内容	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ テキストを用いて、過去に公務員採用試験で出題された様々な内容の文章を読解して、読解力を高める学習。 ■ プリント教材を用いて、文章読解力、語彙力を高める学習。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プリント教材を用いて、文章読解力、語彙力を高める学習。 				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	英語Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西	学 年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	14時間
教科書	プリント				
参考書・問題集					
授業概要	頻出英文法、頻出イディオムの理解を促し、英文読解など公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	英文法、イディオムについての基礎知識をつけ、用法を正しく理解し、長文読解など教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	プリントを使用しながら頻出文法問題の注意点や解説をした後、長文読解の演習を実施する。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <p>文法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. It is ~ to do. 構文 2. 比較 3. 不定詞 4. 動名詞 5. 関係詞 6. その他 <p>長文読解（1回：1～2問）</p> <p>7月～8月 実践学習期</p> <p>前半での学習を網羅した演習問題の実施、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	数的推理Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	小原	学年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	65時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 一般知能テキスト				
参考書・問題集	プリント				
授業概要	整数、割合、速さ、確率、図形の計量などに関する問題について、その考え方と解法を習得させ、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	整数、割合、速さ、確率、図形の計量などに関する問題について、その考え方と解法を習得し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半はテキストに沿って、例題の解説を通して基本的な考え方や解法などの講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習および復習を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 整数 2. 方程式・不等式 3. 速さ（旅人算、流水算、通過算など） 4. 割合（濃度、損益算、仕事算など） 5. 図形（平面図形、立体図形） 6. 場合の数・確率 <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	判断推理Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	小原	学 年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	57時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 一般知能テキスト				
参考書・問題集	プリント				
授業概要	集合、論理、関係性、発言推理、図形などに関する問題について、その考え方と解法を習得させ、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	集合、論理、関係性、発言推理、図形などに関する問題について、その考え方と解法を習得し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半はテキストに沿って、例題の解説を通して基本的な考え方や解法などの講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習および復習を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集合・論理 2. 関係性（対応、順序、位置など） 3. 発言推理 4. 暗号・規則性 5. 平面図形・位相 6. 立体図形 <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	資料解釈Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	小原	学 年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	23時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 一般知能テキスト				
参考書・問題集	プリント				
授業概要	実数、指数、構成比、増減率など様々なタイプの表やグラフの読解力を促し、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	実数、指数、構成比、増減率などについての基礎知識をつけ、グラフや表の活用法を正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半は、プリントを使用しながら項目ごとの特徴や考え方の講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習および復習を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実数の表、グラフ 2. 指数の表、グラフ 3. 増減率の表、グラフ 4. 構成比の表、グラフ 5. その他様々なグラフ <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	作文Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西	学 年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	19時間
教科書	自分を伝えるための作文ワーク&添削				
参考書・問題集					
授業概要	これまでの取り組み、自己PR、志望動機など、公務員試験にて問われる要素について自分自身を見直し、文章で表現する実践練習を行う。				
学習目標	自己分析を行うことで、自分自身の持ち味を深く追求し、理解し、言葉や文章で表現できる力を身につける。				
授業の進め方	前半は、項目ごとに過去の自分の取り組みについて見つめなおし、文章で表現する練習を行う。後半は、実際の公務員試験で課せられるテーマに即して制限時間内に作文を仕上げる練習を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 私の好きなもの 2. 学生時代の思い出 3. 学生時代に熱心に取り組んだこと 4. 失敗から学んだこと 5. 志望動機 6. 自己PR <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容をまとめて、1分間スピーチを実施。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	模擬試験Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	小原	学年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	117時間
教科書					
参考書・問題集	公務員模擬試験（6回） 学内模擬試験（14回） 公開模擬試験（2回） 国家過去問 麻生公開模試（4回）				
授業概要	公務員教養模擬試験の実施。				
学習目標	実際の試験を、実際と同じ時間を測定し、実際の試験と同じ環境の中で効率よく時間を配分し、確実に解答できる力を身につける。				
授業の進め方	実際の試験に即した環境で、実際の試験と同じ時間を測定し、模擬問題の解答を行う。				
授業内容	<p>■公務員模擬試験 全6回</p> <p>教養試験 45問（100分）</p> <p>適性試験 120問（15分）</p> <p>■学内模擬試験 全14回（3種類）</p> <p>教養試験 45問（100分）</p> <p>適性試験 120問（15分）</p> <p>教養試験 40問（90分）</p> <p>適性試験 120問（15分）</p> <p>教養試験 50問（120分）</p> <p>■国家公務員過去問</p> <p>教養試験 40問（90分）</p> <p>■麻生公開模試 全4回</p> <p>教養試験 40問（90分）</p> <p>教養試験 40問（120分）</p> <p>教養試験 50問（120分）</p> <p>教養試験 60問（75分）</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	講演会Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		○
			実務経験	官公庁職員	
担当教員	小原	学 年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	10時間
教科書	-				
参考書・問題集	-				
授業概要	提携している(株)実務教育出版の派遣講師による公務員試験受験ガイダンス、および、各官庁の現役職員による業務説明会を実施する。				
学習目標	公務員採用試験を受験するにあたり、社会における公務員の役割と公務員に求められる素養を理解する。その上で、各官庁が担う役割を理解し、自身の受験目標を明確にすること。				
授業の進め方	(株)実務教育出版および各官庁の講師による講演会の実施。場合によりスライドやDVDによる業務説明や質疑応答を行う。各講演後に報告書の記入を行う。				
授業内容	<p>毎週金曜日に実施。</p> <p>(株)実務教育出版</p> <p>4月 公務員試験の概要、教養試験対策について</p> <p>6月 実践期における教養対策、面接・作文試験の対策について</p> <p>国家公務員（地方法務局、地方検察庁）</p> <p>4月～ 各官庁の役割、業務説明について</p> <p>税務職員</p> <p>5月～ 業務内容、業務説明について</p> <p>海上保安庁</p> <p>6月～ 業務内容、業務説明について</p> <p>日南町役場</p> <p>6月～ 業務内容、業務説明について</p> <p>自衛隊</p> <p>7月以降 業務内容、業務説明について</p> <p>その他（各官庁に勤務する卒業生）</p> <p>随時（講演可能な日程を調整の上実施）</p> <p>5月～ 学生時代の過ごし方、勉強方法、現在の業務内容について</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	総合学習Ⅱ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	小原	学年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	通年	時間数	44時間
教科書					
参考書・問題集					
授業概要					
学習目標	様々な体験を通じて、意見交換、討論や課題研究などを行い、積極的に自分を表現する方法を身につけていく。				
授業の進め方	職業研究やテーマごとのディスカッションを、各クラス単位や学校全体で実施する。市立図書館訪問や清掃活動などの公害活動を実施する。				
授業内容	<p>■集団討論 遠足や球技大会の実施方法などについてグループに分かれて実施する。 （クラス単位や学校全体など、定期的にメンバーを変えて実施する）</p> <p>■図書館訪問 米子市立図書館へ訪問し、利用方法を学習した上でテーマに沿った文献の探求やそれについてのレポートを実施する。</p> <p>■清掃活動 定期的に校外で清掃活動を実施する。</p> <p>■その他、クラス活動 クラスごとに必要に応じて、検定試験や研究活動などを実施する。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階） A：理解および日常の授業態度が優秀な者　B：理解および日常の授業態度が良好な者 C：理解および日常の授業態度がやや劣る者 D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者 (2)科目の授業出席率が80%未満の者　※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	LHR II		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	小原	学 年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	通年	時間数	36時間
教科書					
参考書・問題集					
授業概要	学校行事の実施。				
学習目標	校内のレクリエーションを通じてイベントを組み立て運営する力を身につけたり、参加することでどのような効果があるのかを考える力を身につける。				
授業の進め方	学校行事の企画、運営、および参加。				
授業内容	<p>■入学・進級オリエンテーション 米子コンベンションセンターにて、実施。 1日目 学校内規則の確認、模擬試験実施、学習内容および学習計画の確認 2日目 全学生によるレクリエーションの実施</p> <p>■遠足 4月下旬に実施。彫刻ロードの清掃も兼ねる。</p> <p>■球技大会 夏、冬の二回実施。 学生主体で、企画、運営、活動を実施する。</p> <p>■学園祭 12月中旬に実施。 学生主体で、企画、立案、運営、活動を実施する。</p> <p>■プレゼン発表会 年度末に実施。 5名ほどの班に分かれて、各班ごとにテーマを決定し、研究発表を実施する。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階） A：理解および日常の授業態度が優秀な者　B：理解および日常の授業態度が良好な者 C：理解および日常の授業態度がやや劣る者 D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者 (2)科目の授業出席率が80%未満の者　※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。 検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	公務員リテラシーⅡ		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	小原	学 年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	57時間
教科書					
参考書・問題集					
授業概要	公務員二次面接試験に向けたスピーチ、模擬面接練習、および、面接カード（作文）作成を実施する。				
学習目標	これまでの生活を振り返り、自分自身の強みや志望職種に向かう思いの源を明確にしていく。また、これを自分の言葉で表現して発言したり文章化したりできるように促す。				
授業の進め方	テーマを与えて1分間スピーチを行う。各自受験先に提出する面接カードの作成を行う。準備が整ったものから、実際の場面に即した面接練習を行う。				
授業内容	<p>■スピーチ 自己PR、志望動機など、テーマに沿った内容についての1分間スピーチを行う。スピーチの際の所作（立居振舞、発声、速度など）に注目して実施する。聴き手にも話の聴き取り方を学ばせる。</p> <p>■面接カード作成 各自受験先に提出する面接カードの作成を実施する。</p> <p>■面接練習 実際の場面に即した形で面接練習を行う。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階） A：理解および日常の授業態度が優秀な者　B：理解および日常の授業態度が良好な者 C：理解および日常の授業態度がやや劣る者 D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者 (2)科目の授業出席率が80%未満の者　※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	課題研究		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	小原	学 年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	通年	時間数	46時間
教科書					
参考書・問題集					
授業概要	数名ずつの班に分かれ、1年間で学んだことに準ずるテーマを挙げ、研究発表の準備を進めていく				
学習目標	将来、公務に就く上で必要となる社会を見る力をつける。 収集した素材を整理し、わかりやすく伝える技術を身につける。				
授業の進め方	班ごとにディスカッションを重ねて、各テーマの立案及び情報収集方法を計画立てる。必要に応じてインタビューの要請をしたり、書籍の検索をしたり、アンケートによるデータ収集をしたりする。素材を整理し、プレゼン資料を作成する。				
授業内容	<p>■学習発表会に向けた準備</p> <p>年度末に実施する学習発表会に向けた、テーマ決定を行う。</p> <p>各班ごとに、研究、プレゼン用の資料作成、プレゼンの練習を実施。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	Office応用		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	塚田	学年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	後期	時間数	63時間
教科書	MOS Powerpoint365 & 2019、Word2021応用、Excel2021応用				
参考書・問題集	Word2021ドリル、Excel2021ドリル				
授業概要	Officeソフトの様々な機能や活用術を身につけるとともに、ビジネス文書や表の作成など、実践的な能力を養う。				
学習目標	Word、Excel、PowerPointについて実務で使用、活用できる技術の習得をする。 MOS PowerPointを取得する。				
授業の進め方	テキスト、参考書を基に授業を進行する。Word、Excelの実習を中心にを行い、文書作成、表計算ソフトウェアの知識、技術を習得する。				
授業内容	<p>【PowerPoint】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プレゼンテーションの作成と管理 ■ テキスト、図形の挿入、書式設定 ■ 表、グラフ、メディアの挿入 ■ アニメーションの適用 ■ 複数のプレゼンテーションの管理 など <p>Word・Excel 実技演習・課題に取り組む</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目 (シラバス)

授業科目名	VBA実習		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	塚田	学 年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	後期	時間数	66時間
教科書	よくわかるExcelマクロ/VBA				
参考書・問題集					
授業概要	ExcelのマクロとVBAについて学習し、業務の自動化について実務に役立てるための知識と技術を身につける。				
学習目標	ExcelのマクロとVBAについての知識と技術を身につける。 VBAエキスパート Excel VBA ベーシックの検定取得を目指す。				
授業の進め方	テキスト、参考書を基に授業を進行する。ExcelのマクロとVBAの実習と問題演習を行い実践的な技術を身につける。				
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ マクロとVBAの概念 ■ マクロ記録、編集 ■ モジュールとプロシージャ ■ デバッグ ■ 変数と制御構造 変数、定数、条件分岐、繰り返し ■ 実技演習 				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準 (成績評価はA、B、C、Dの4段階)</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

授業要目（シラバス）

授業科目名	ビジネスマナー		実務経験のある教員等による授業		○
			実務経験	マナー教室講師	
担当教員	池上	学 年	2年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	後期	時間数	21時間
教科書					
参考書・問題集					
授業概要	社会生活の中で不可欠なマナーを理解する。また、実演を通じて実際の場面で活用できる力を身につける。				
学習目標	社会生活の中では多くの人と関わることを理解し、様々な場面における他者への配慮を考え行動できる人材を目指す。				
授業の進め方	他者への配慮が必要なビジネスシーンを紹介し、どのような配慮をしたうえでどのような行動をするのが望ましいか考える時間を設ける。また、実際に実践練習を行う。				
授業内容	<p>様々なビジネスシーンにおける配慮を理解し、実践練習を行う。</p> <p>敬語の使い方 尊敬・謙譲・丁寧といった基本的な敬語の種類と使用方法を理解する。</p> <p>電話応対 受信した電話の応対方法、取引先への電話のかけ方などを理解する。</p> <p>接待方法 上座、下座など部屋や車、エレベーターなどの座席や使い方などを理解する。</p> <p>その他 基本的な手紙の書き方、メールの文面など、ビジネスシーンにおける様々な場面での配慮の方法を理解する。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者 B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p> (2)科目の授業出席率が80%未満の者 ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					